

姫路市すこやかセンターのあり方検討について

～第1回 姫路市すこやかセンターのあり方検討懇話会～

あり方検討懇話会概要

1

1
あり方検討
懇話会概要

2
現状分析

3
意見交換

すこやかセンターの概要

施設概要

所 在 地	姫路市市之郷1006番地8
構 造	鉄筋コンクリート造 地上3階地下1階
延床面積	5,437m ²
敷地面積	6,013m ²
開館年月日	平成14年(2002年)4月30日
指定管理者	姫路えがおづくりパートナーズ (令和5年(2023年)4月～令和10年(2028年)3月)
設 置 目 的	市民の健康の保持増進や高齢者の生きがいづくり支援、子育て支援



実施事業

1階	健康づくり施設:各自の年齢や体力に応じた健康づくりに取り組める施設 温水プール、採暖施設(採暖室、ジャグジー、採暖槽等)、トレーニングルーム、運動フロア、リラクゼーションルーム
2階	老人福祉センター:高齢者の生きがいづくり支援(校区登園、個人・団体利用) 多目的ホール、学習室、集会室、図書室、屋内グラウンド
3階	子育て支援施設:子育て相談・情報の提供、その他子育て支援事業 子育て情報相談センター、ファミリーサポートセンター、子育て学習センター

すこやかセンターの設置経緯



「姫路市高齢者保健福祉10か年計画」において、老人福祉センターの機能の見直しとして、「多世代間ふれあいプラザ」が位置付けられた。

新総合計画策定の基礎調査として実施した1万人市民アンケートの結果、健康づくりへの市民の関心が高かった。

「高齢者保健福祉計画」の見直しにおいて、多様化する高齢者の価値観や将来の高齢者の志向に対応できる設備内容や事業を検討する中で、老人福祉センター「養寿園」の建て替えとして、「新福祉センター(現すこやかセンター)」の整備が位置付けられた。

新福祉センター(現すこやかセンター)のコンセプト

- ・1階は、市民一人ひとりの誰もが年齢や体力に応じて手軽に健康づくりに取り組めるとともに、介護予防の観点を強く意識した健康づくり施設。
 - ・2階は、高齢者の生きがい活動の支援など老人福祉センター養寿園の代替施設。
 - ・3階は、子育て支援のための施設。
- ➡ これらの施設を多くの市民に利用してもらうことによって、多世代間のふれあいの場として活用。

本市の公共施設を取り巻く状況

次世代の負担増大

- 今後、人口減少や少子高齢化による市税収入の減少、社会保障費の増大が見込まれる
- ひめじスーパーアリーナや新市立高校、新美化センター等の整備が控えている
- 次世代に負担を残さない公共施設の更新・統廃合・長寿命化や最適配置が必要

施設の安全確保

- 本市の公共建築物の多くは、昭和40～50年代に整備
- 整備後30年を経過した施設の総床面積は全体の約8割
- 適切な修繕・改修による老朽化対策を計画的かつ継続的に取り組む必要がある

機能見直しの必要性

- 生活様式の変化やデジタル技術の革新的な進歩等の社会情勢の変化により、公共施設等に対する市民ニーズも変化していくことが予想される
- 将来を見据えた、提供すべきサービスの内容及び提供方法を精査し、機能見直しに取り組む必要がある

目指すべき姿 創造と交流を生む施設

従来の枠組みに縛られない新たな価値・サービスを生み出すとともに、市民や地域コミュニティ、企業・団体等、多様な主体が集い、交流・活動している場を目指します

新たな**公共施設等総合管理計画**※1において、「創造と交流を生む施設」を実現しつつ、持続可能な行財政運営のため、今後40年間で床面積総量の30%削減を目指すこととしている

※1 令和8年度(2026年度)から令和17年度(2035年度)までを計画期間とした計画を今年度中に策定予定。

姫路市すこやかセンターのあり方検討懇話会について

- 姫路市すこやかセンターは平成14年(2002年)4月の竣工から20年以上が経過し、大規模改修の検討時期にある。
- 人口減少が進む中、本市の公共施設を取り巻く状況を踏まえて、施設のあり方を検討する必要がある。
- 過去10年間(平成27年度(2015年度)から令和6年度(2024年度))の利用者減少率が類似施設の中で最も高く、特に、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行した令和5年度(2023年度)以降の利用者の回復状況が芳しくない。

これらの観点から、有識者からの意見をいただきあり方検討懇話会を開催

■健康づくり施設の利用者数比較

施設名	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	利用者 増減率
すこやかセンター(1F)	186,372	189,694	187,677	178,458	110,736	74,328	87,248	121,797	142,353	146,794	-21.24%
広畠トレーニングルーム	10,397	4,110	4,295	8,542	11,894	10,162	11,716	13,631	16,204	16,212	55.93%
総合スポーツ会館	198,665	203,041	244,154	263,251	239,566	149,806	184,523	210,047	224,170	211,054	6.24%
香寺温水プール	70,217	70,927	78,808	79,642	75,410	56,067	68,846	67,228	38,467	65,362	-6.91%
網干健康増進センター	154,647	156,912	158,716	142,289	132,131	86,639	103,270	120,011	119,862	138,614	-10.37%

■老人福祉センター等の利用者数比較

施設名	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	利用者 増減率
すこやかセンター(1・2F)	279,149	278,167	273,463	261,103	185,068	126,018	149,168	193,029	214,920	217,043	-22.25%
楽寿園	46,184	45,892	19,854	47,074	44,365	20,146	26,368	31,630	42,147	41,791	-9.51%
夢前福祉センター	60,120	59,949	59,243	61,979	57,693	35,767	36,023	44,823	53,095	57,987	-3.55%

懇話会の進め方(案)について

・姫路市すこやかセンターあり方検討懇話会では、以下の点についてご意見を伺いたいと考えています。

すこやかセンターあり方検討懇話会(全3回)

- すこやかセンターの運営状況に関する課題
- 当初のコンセプトである「多くの市民に利用してもらうことによって、多世代間のふれあいの場として活用」として機能しているか
- すこやかセンターが市の目指すべき「創造と交流を生む施設」の機能を果たしているか
- すこやかセンターの事業効果がライフ・サイクル・コストに対して、適正か
- 少子高齢化が急激に進む中、本市の重視する「介護予防費の抑制効果」が十分に発揮されているか
- 仮に代替策により事業を実施した場合、すこやかセンターを維持することとどちらが効果的か



委員の皆さまから頂いた意見を踏まえ、市の今後の施設の方向性を決定する予定です。



懇話会の進め方(案)について

ライフサイクルコストや利用状況など市が行った現状分析の結果を説明し、次に各階の機能が異なることから、1階部分から順にご議論いただけます。



1

現状分析

- ・施設改修時のライフサイクルコストの試算
- ・各階の利用状況等の分析

2

3階 子育て支援施設

2階 老人福祉センター

1階部分から順に意見交換

1階 健康づくり施設

2

2
現状分析

現状分析

3
意見交換

1
あり方検討
懇話会概要

すこやかセンターの現状分析

- 1 ライフサイクルコスト(試算)について
- 2 施設の利用状況について
- 3 1階 健康づくり施設の利用状況分析
- 4 民間類似施設(健康づくり施設)の現状分析
- 5 2階 老人福祉センターの利用状況分析
- 6 3階 子育て支援施設の利用状況分析

1 すこやかセンターのライフサイクルコスト(試算)について

大規模改修費用 約14億円

過去の工事費ベースから試算

+

将来的な運用コスト 約35億円(÷141,064千円×25年)

過去5年間の運営経費から試算(運営経費の平均 141,064千円)

本市の公共施設保全計画の標準ルールでは、25年後に再度大規模改修・建替を実施

※市直営部分の人件費・需用費等は除く

=

約49億円 + α

近年の賃金・物価水準の大幅上昇から、今後維持管理コストの増大が見込まれる



すこやかセンターを大規模改修すると、今後、25年間で50億円以上の投資が必要となる

1 すこやかセンターのライフサイクルコスト(試算)について

○歳入歳出決算状況

(千円)

1階 健康づくり施設		R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
歳入	健康づくり施設使用料収入	13,799	16,682	23,770	28,338	30,380
	駐車場使用料収入	1,296	1,346	1,580	1,612	1,736
	その他(共益費等)	1,200	881	673	467	486
歳出	指定管理料(2・3階含む)	▲115,782	▲120,446	▲128,978	▲131,438	▲131,040
	賃借料(駐車場)	▲10,233	▲10,233	▲10,233	▲10,233	▲11,508
	修繕ほか	▲5,621	▲20,458	▲7,957	▲7,826	▲6,728
合 計		▲115,341	▲132,228	▲121,145	▲119,080	▲116,674

2階 老人福祉センター		R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
歳入	貸館使用料収入	720	838	1,003	929	1,229
	センター運営委託	▲1,703	▲2,142	▲2,683	▲2,760	▲2,000
	バス運行委託	▲17,141	▲18,277	▲20,017	▲20,779	▲17,000
合 計		▲18,124	▲19,581	▲22,768	▲22,610	▲17,771

○同種の民間施設の会員料金との比較 ※すこやかセンターは1か月定期券で比較

(千円／月)

施設名	料金(デイタイム)	料金(フルタイム)	備考
すこやかセンター	4,800円	6,000円	16歳未満・60歳以上・障害者は1/2
ルネサンス姫路	9,130円	10,780円	
セントラルスポーツプラザ24	9,350円	11,550円	
ホリデイスポーツクラブ姫路	7,700円	9,570円	
イオンスポーツクラブ姫路	8,250円	10,450円	
朝日スポーツクラブ	8,747円	12,100円	

1 すこやかセンターのライフサイクルコスト(試算)について

- ・1階部分の運営赤字の要因として、民間施設と比較し利用料金が安価であることが要因である。
- ・管理経費、改修費用を床面積ベースで試算し、収支を均衡させる場合の使用料は以下のとおり。

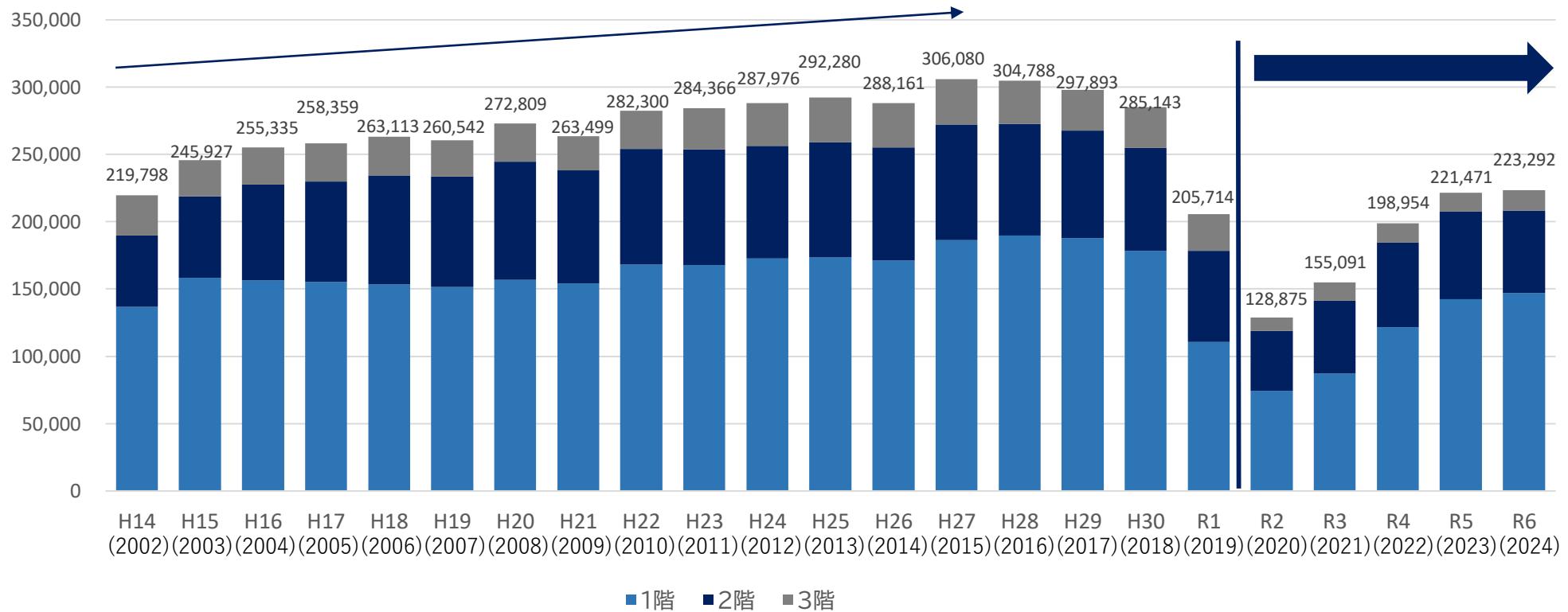
		使用料(円)			※ 1階部分の大規模改修費用を床面積ベースで、14億円のうち6億3,440万円として試算。 ※ 指定管理料のうち、2、3階の管理経費を3,000万円として試算。 ※ 16歳未満・60歳以上・障害者への1/2減免は実施しないものとして試算。	
		利用券	回数券(11枚)	定期利用券		
健康づくり施設	温水プール	600円	6,000円	デイタイム利用 4,800円 フルタイム利用 6,600円		
	トレーニングルーム	600円	6,000円			
	温水プール及び トレーニングルーム	1,100円	11,000円			

		使用料(円)			※ 1階部分の大規模改修費用を床面積ベースで、14億円のうち6億3,440万円として試算。 ※ 指定管理料のうち、2、3階の管理経費を3,000万円として試算。 ※ 16歳未満・60歳以上・障害者への1/2減免は実施しないものとして試算。	
		利用券	回数券(11枚)	定期利用券		
健康づくり施設	温水プール	1,250円	12,500円	デイタイム利用 10,000円 フルタイム利用 13,750円		
	トレーニングルーム	1,250円	12,500円			
	温水プール及び トレーニングルーム	2,400円	24,000円			

- ・現実的には利用者の減少は避けられず、収支均衡を目指すことは困難。運営経費が赤字の中、仮に施設を継続する場合では、大規模改修費用等を使用料へ転嫁することは避けられない。

2 施設の利用状況について

- 開設から平成27年度(2015年度)まで利用者が増加傾向にあったが、以降は、減少傾向にある。
- 加えて新型コロナウイルス感染症流行の影響で利用者が大幅に減少。5類感染症に移行した令和5年度(2023年度)以降も利用者数は回復していない。



※H14.4.30開設のため、H14の利用実績は1か月少ない。
※R1の利用者の減少は、プール天井の長期改修に伴うもの。

3 1階 健康づくり施設の利用状況分析

- ・プール利用の割合が高い(プール2に対し、トレーニングルーム1程度)。

	H14 (2002)	H15 (2003)	H16 (2004)	H17 (2005)	H18 (2006)	H19 (2007)	H20 (2008)	H21 (2009)	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)
プール	95,649	111,582	108,084	104,726	102,650	101,874	105,879	103,155	111,232	109,296	114,126	114,722
トレーニングルーム	41,089	46,583	48,384	50,385	50,778	49,803	51,018	50,931	56,850	58,442	58,408	58,788

	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
プール	113,174	122,577	125,158	120,717	114,230	51,587	49,940	59,957	79,979	89,262	92,532
トレーニングルーム	58,118	63,795	64,536	66,960	64,228	59,149	24,388	27,291	41,818	53,091	54,262

- ・開設当初と比較し、高齢者(60歳～)の利用割合が大幅に増加している。

	一般(16～59歳)	高齢者(60歳～)	障害者	こども(3～15歳)
平成14年度	47,618人(34.82%)	76,732人(56.12%)	3,383人(2.47%)	9,005人(6.59%)
令和6年度	16,053人(10.94%)	120,056人(81.79%)	6,680人(4.55%)	4,005人(2.73%)

- ・10年前(平成27年)と比較し、16～59歳の利用者が約半数となっている。

	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	利用者 増減率
一般(16～59歳)	29,887	31,518	29,731	26,978	19,223	10,490	11,195	16,677	17,766	16,053	-46.29%
高齢者(60歳～)	141,456	144,253	144,320	137,090	85,184	58,526	68,454	95,000	113,844	120,056	-15.13%
障害者	9,495	8,464	8,557	9,665	5,389	3,909	4,508	5,884	6,375	6,680	-29.65%
こども(3～15歳)	5,534	5,459	5,069	4,725	940	1,403	3,091	4,236	4,368	4,005	-27.63%
合計	186,372	189,694	187,677	178,458	110,736	74,328	87,248	121,797	142,353	146,794	-21.24%

3 1階 健康づくり施設の利用状況分析

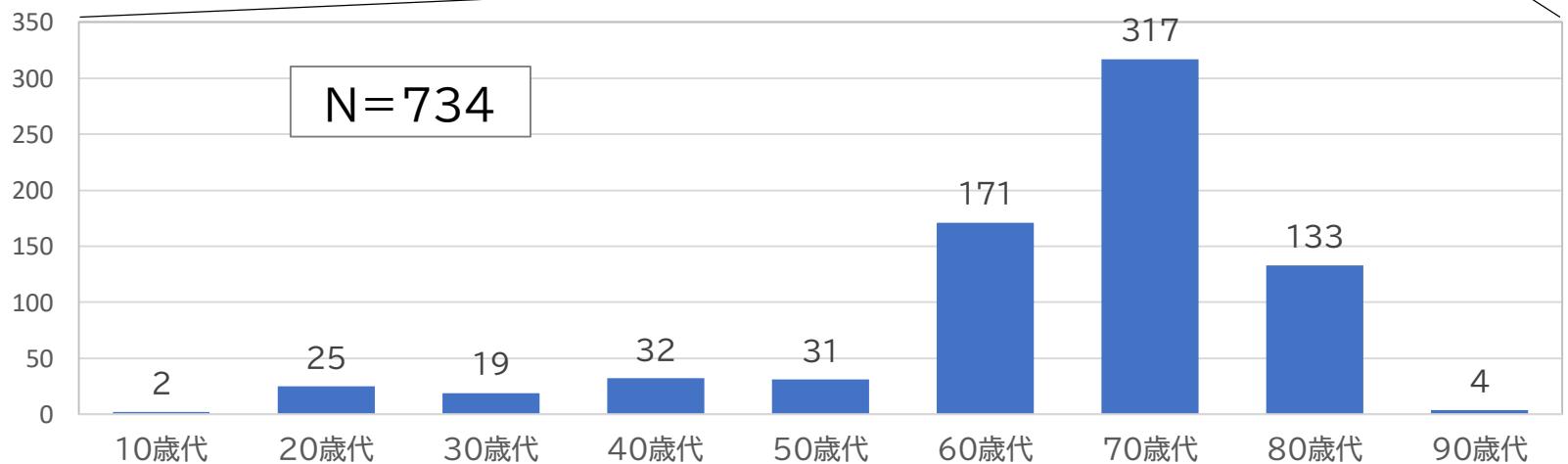
利用券種による分析(R6(2024)定期券利用簿より)

- 定期券利用者が109,352人で全体の約3/4を占めているが、定期券の実購入者数は734人である。
- 定期券購入者の年間平均利用回数は、約149回と年間営業日の約半分である(R6:306日)。
- 定期券購入者の年齢構成をみると、70歳代が最も多く、次いで60歳代、80歳代が多い。
購入者のうち60歳以上が625人であり、約85%を占める。

1日券				回数券(11枚つづり)				定期券			
大人	高齢者	障害者	小人	大人	高齢者	障害者	小人	大人	高齢者	障害者	
7,446人	5,230人	752人	3,386人	4,990人	14,258人	761人	619人	3,617人	100,568人	5,167人	

計146,794人 16,814人(11.5%) 20,628人(14.0%) 109,352人(74.5%)

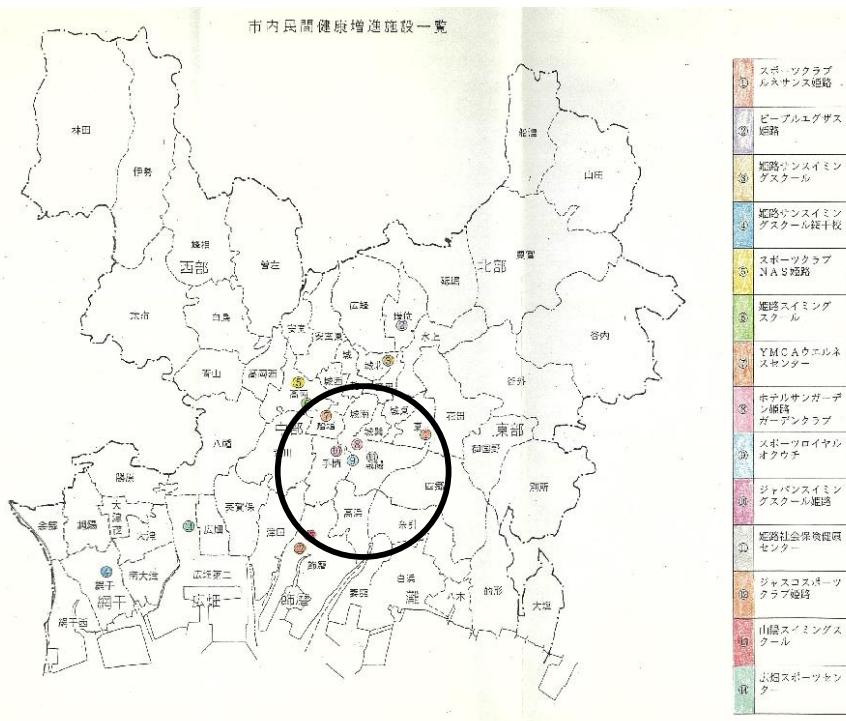
定期券購入者数
734人



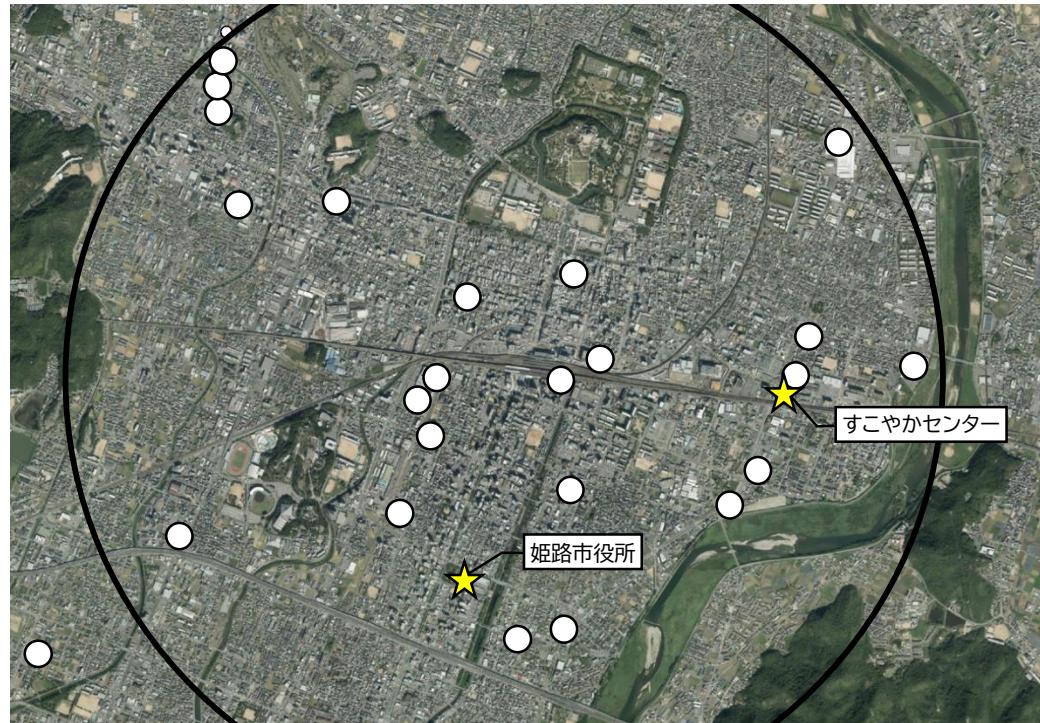
4 民間類似施設(健康づくり施設)の現状分析

民間類似施設の状況

市民健康づくり施設基本構想 平成11年9月 企画局総合政策室作成



府内GISで作成 令和7年1月



- ・姫路駅から約3km圏内の健康づくり施設(プール、トレーニングルーム、その両方のいずれか)は、26年(H11(1999)からR7(2025))の間に9施設→23施設(パーソナルジム等除く)に増加。
- ・24時間営業、女性専用、ダイエットを目的としたものや医療専門職監修のパーソナルジム等、事業形態は多様化している。
- ・プール、トレーニングルームにパーソナルジム、ヨガ、ピラティスなどを加えると、市内で約120の民間健康づくり施設が存在する。

5 2階 老人福祉センターの利用状況分析

老人福祉センターとは

老人福祉法に基づき設置することができる施設であり、無料又は低額な料金で、高齢者に関する各種相談に応ずるとともに、健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与することを目的とする施設(本市では条例で9時から17時までの利用を60歳以上に限定。17時以降は貸館として運用している)。

活動内容

活動内容は大きく3種類に分かれる。

- ①一般登園(個人):囲碁・将棋、カラオケ、図書利用等
- ②一般登園(団体):ダンス・音楽等のサークル活動
- ③校区登園 :老人クラブ会員に対して、地域から老人福祉センターまでバスで送迎し教養講座・体操等を実施

加えて17時以降は、使用料を負担いただき、施設の一部を一般利用に開放している。

	R 6 (2024)
一般登園者 (個人利用)	23,247人
一般登園者 (団体利用)	31,082人
校区登園 (老人クラブ会員)	7,114人
一般利用	8,806人

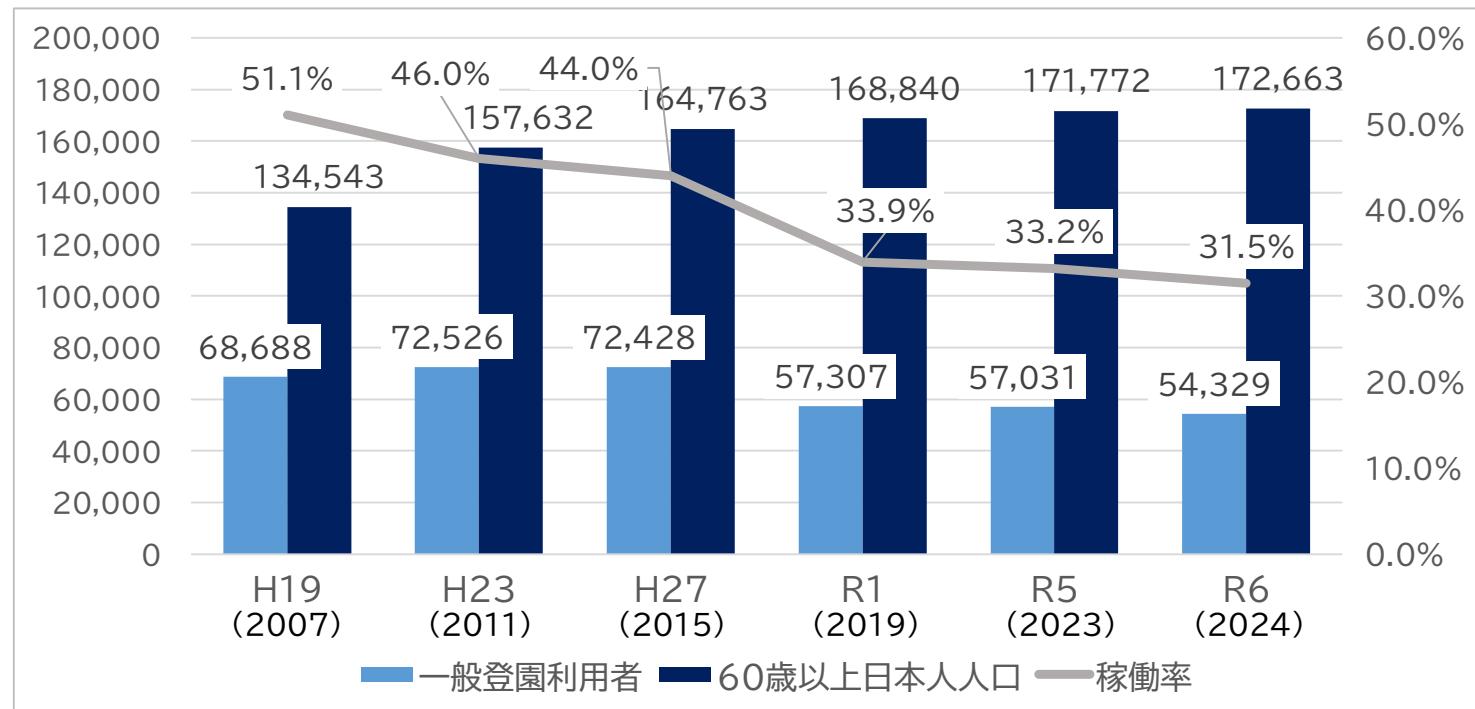
利用料金

厚労省の定める設置要綱には「老人福祉センターの利用は原則として無料とする。」と規定されており、9時から17時までは利用料金を徴収していない。

5 2階 老人福祉センターの利用状況分析

一般登園利用者の状況

- ・一般登園利用者は平成23年(2011年)をピークに利用者が減少。
- ・60歳以上人口は増加しており、本市の60歳以上人口に対する一般登園利用者は、51.1%から31.5%に低下。



実利用者数の調査

一般登園(個人)の利用状況

- ・利用簿に記載のあった1人当たりの年間平均利用回数は82.4回であった。
- ・(年間利用者数)23,247人÷(平均利用回数)82.4回=282人が実利用者数と推計。

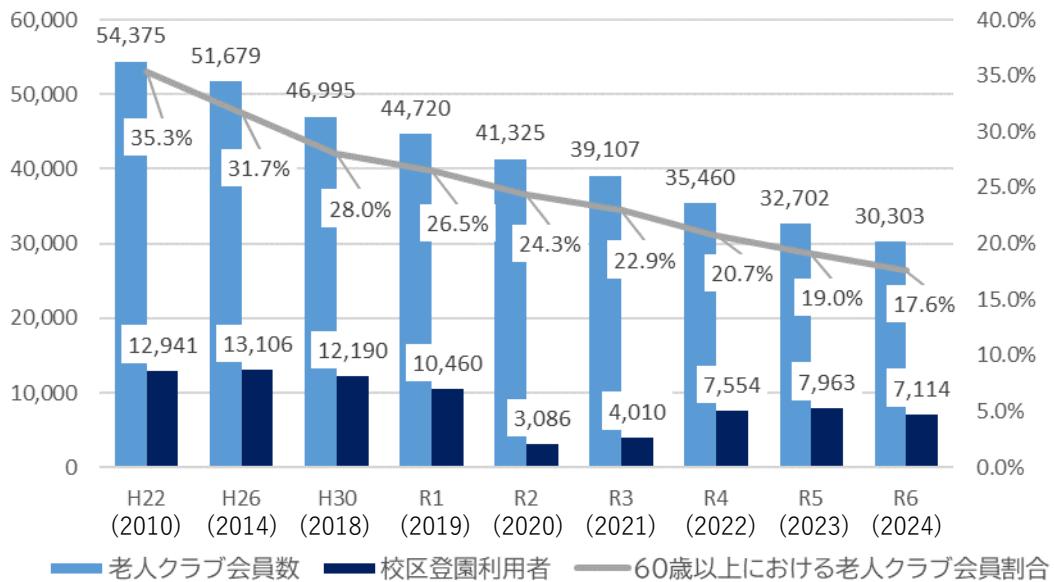
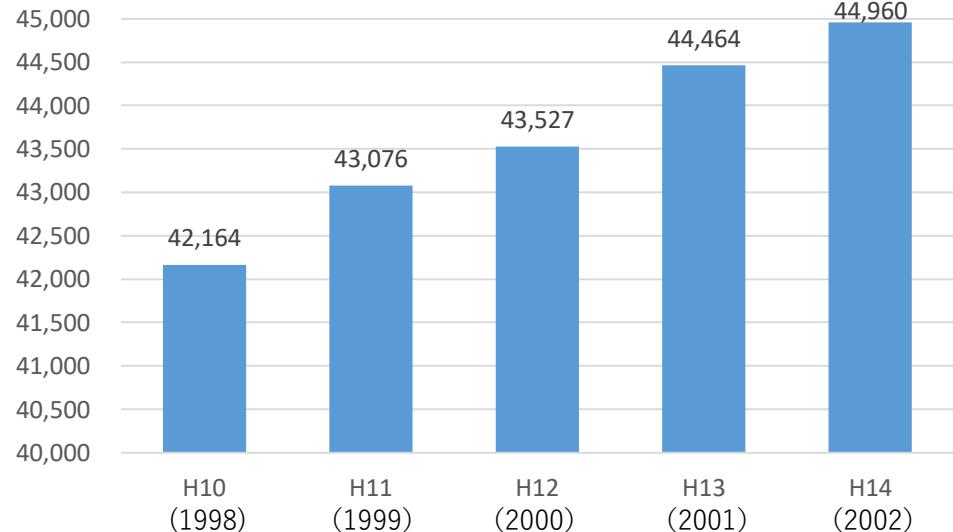
一般登園(団体)の利用状況

- ・申請書に記載の各団体の参加人数を集計すると、年間約500人であった。

実利用者数は、約800人。これは、本市の60歳以上人口173,505人の0.46%である。

5 2階 老人福祉センターの利用状況分析

老人クラブ会員の推移と校区登園参加人数の推移



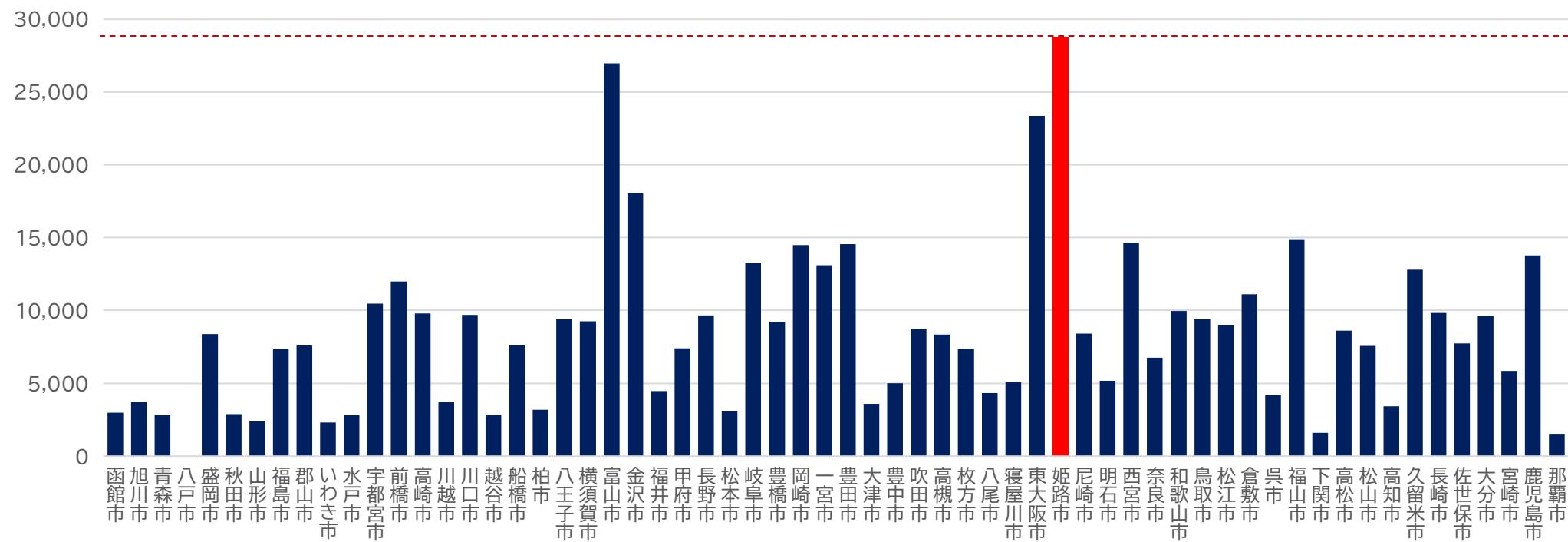
すこやかセンター建設当時、校区登園の参加主体である老人クラブ会員数は増加傾向にあった。

平成22年をピークに老人クラブ会員数は減少しており、校区登園についても参加人数が減少傾向にある。

すこやかセンター設置時は、老人クラブ会員数が60歳以上人口の41.1%を占めており、校区登園事業は高齢者の生きがいづくりに大きな役割を果たしてきた。一方、R7(2025).4の老人クラブ会員数は28,786人であり、これは、本市の60歳以上人口173,505人の16.59%である。

5 2階 老人福祉センターの利用状況分析

老人クラブ会員数比較



中核市での老人クラブ会員数を比較すると、姫路市が最も会員数が多い。

令和7年(2025年)4月1日時点での加入率16.59%は、中核市2位である(中核市平均は6.39%)

6 3階 子育て支援施設の利用状況分析

利用状況

コロナ禍以前の利用状況に回復していない(H29 30,054人、H30 30,256人)。

R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
27,211人	9,740人	13,946人	14,333人	14,124人	15,055人

利用状況低下の分析

近年、類似施設である駅前すぐすぐ広場、のびのび広場みらいえの開設等により、利用者が分散されたことが要因と考えられる。



駅前すぐすぐひろば・のびのび広場みらいえの利用状況

	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
駅前すぐすぐひろば	—	4,318人	19,796人	28,648人	30,208人
のびのび広場みらいえ	—	—	—	9,592人	9,254人

3

1
あり方検討
懇話会概要

2
現状分析

3
意見交換

意見交換